

横浜市立小雀小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・重点研や学年研で「わかる・できる授業」の実現に向け、言語活動に焦点を当てた話し合いを行い、日々の授業で実践する。	・カードに書くことで発表を促す、根拠をあげて意見を述べるなど言語活動の充実に向け手立てを講じてきた。学力向上へ直接結び付けることは難しかった。	A ⓐ C D
2 豊かな 心	・年間を通して仲良し活動（異年齢集団活動）を実施する。	・高学年が低学年の面倒をよく見ながら仲良く活動する姿が回を重ねるごとに多く見られるようになった。自分が好きと答える児童が増えた。	A ⓐ C D
3 健やかな 体	・体力向上1校1実践として週2回のクラス全員での外遊びを実施する。 ・年2回開催する長なわ集会に向けて取り組む。	・長なわ集会に向けて各学級とも練習に励み、とび方が上手になり回数も増え、体力向上が図れた。 ・クラス全員での外遊びには学級差が見られた。	A ⓐ C D
4 教育課程 学習指導	・問題解決的学習に取り組む。 ・毎日、学年や学級に応じた宿題を出し、家庭学習の定着を図る。	・特に社会科において視点を決めた学習の振り返りやまちの人・物・事に関わったことで問題が生まれ、関心をもって学習する姿が見られた。解決への見通しやまとめ表現については課題が残る。	A ⓐ C D
5 児童生徒 指導	・小雀スタンダードをもとに一貫した指導を全職員で行う。	・小雀スタンダードを教室にも常備し、子どもと確認しながら指導を行い、一定の成果は上げた。さらに継続して指導していく必要がある。	A ⓐ C D
6 特別支援 教育	・個々の実態に応じ、作成した支援計画をもとに実施する。 ・児童の情報を全職員で共有していく場を定期的に設ける。	・サポート教室では、担任と担当者が連絡を取り合って個に応じた支援を行うことができた。 ・児童に関する情報を共有することはできた。共有の仕方や情報の活用については検討したい。	A ⓐ C D
7 地域連携	・ホームページを定期的に更新し、情報を発信する。	・ホームページを刷新し、定期的に更新を行った。校内音楽会の様子をアップしたり、インフルエンザ情報なども発信したりして子どもたちの様子を知らせた。	A B C D
人材育成 組織運営	・意図的・計画的に児童理解や危機管理に関する研修を実施する。	・児童理解や食物アレルギー、不祥事防止などの研修を行い、教職員の自覚と力量向上を図った。日常にもその成果が生かされた。	A ⓐ C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○特別支援教育の視点から教室の掲示物を側面や後方に掲示し、配慮がされていた。 ○子どもたちの落ち着いた授業態度に取り組みの成果が感じられた。 ○校庭の草取りなど、環境整備に保護者が協力している点が良い。
学校関係者 評価結果	○子どもたちは全体的に落ち着いて授業を受けられている。 ○絵や習字の掲示物を見ると、しっかりかけている。ノートの取り方を掲示するなど、具体的なものを示したり、型を見せたりすることは大事である。 ○高い目標をもってメリハリのある授業を今後も行ってほしい。

評価結果に 対する 学校の見解	・特別な支援を要する児童への個々の対応を図る一方、全体を育てていくことを継続し、子どもたちが落ち着いた学校生活を送れるように努める。 ・次年度も学校経営方針や教育活動の状況などを授業参観・懇談会、学校便り、学校ホームページなどで発信し、教育活動への理解と連携を図っていく。
-----------------------	---

学校経営 中期目標 達成状況	・重点研や研修での成果を日々の授業につなげ、学力向上に一層努める。 ・学校保健委員会「温かい言葉で伝え合う」の取り組みや、様々な教育活動におけるよいところ見つけ等の活動を通し、自尊感情や他者を認める心が育ってきている。今後も継続していく。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・「わかる・できる授業」の実現に向け、学習状況調査の結果から課題となった点に焦点を当て、職員間で話し合い、具体的な方策を考え、日々の授業で実践する。	・学習状況調査の結果から、成果を上げた取り組みを紹介し合った。 ・模擬授業を通し、わかる授業のための手法について話し合い、実践につなげた。	A ⓐ C D
2 豊かな 心	・年間を通して仲良し活動（異年齢集団活動）をさらに実施する。 ・各学級、道徳の授業を授業参観で年1回公開する。	・仲良し活動は、特にリーダーとなる高学年の有用感を味わわせ、自尊感情を高めることにつながった。 ・全学級道徳の授業を公開すると共に、授業研で道徳的価値の把握のさせ方を学び合い、実践に生かした。	A ⓐ C D
3 健やかな 体	・週2回のクラス全員での外遊びを工夫し、体力の向上に努める。 ・給食後の歯磨きに全校で取り組む。	・長なわには全学級が一丸となって取り組み、大変良い成果を上げたが、他の全員遊びは今一つであった。 ・給食後の歯磨きで、歯口清掃検査の結果、Aの子どもが増えた。	A ⓐ C D
4 教育課程 学習指導	・問題解決的学習に取り組む。 ・年間を通した継続的な取り組みで基礎的・基本的な事項の定着を図る。(聴写、百マス計算、ことわざ、暗唱等)	・校外学習をきっかけとして展開された横断的な学習は、子どもが関心をもって取り組み、理解を深めるものになった。 ・学級の実態に応じた継続的な取り組みが徐々に成果を上げてきた。	A ⓐ C D
5 児童生徒 指導	・小雀スタンダードの内容を全職員で確認し、これに基づいた一貫した指導を行う。 ・年間を通して挨拶運動に取り組む。	・挨拶週間中は、意識して挨拶ができた。習慣化させるには継続した取り組みが必要である。 ・小雀スタンダードに基づいた指導を継続し、定着してきている。	A ⓐ C D
6 特別支援 教育	・個々の実態に応じ、作成した支援計画をもとに実施する。 ・児童の情報を全職員で共有していく場を月1回設ける。 ・事例研修を実施し、日常の指導に活かす。	・きこえとことばの教室や学齢後期発達相談室の先生を招いた研修を実施。日頃の指導に生かした。 ・関係者でケース会議を開催すると共に、全職員で情報を共有することで同じ方向で支援が行われた。	A ⓐ C D
7 地域連携	・近隣の幼稚園、保育園との活動を工夫し、交流を深める。 ・学校便りやホームページの内容を充実する。	・年3回の幼稚園との交流で、経験を生かしながら相手の思いに寄り添う1年生の成長した姿が見られた。 ・子どもたちの様子をタイムリーにホームページで発信。アクセス数が増加した。	A B C D
人材育成 組織運営	・月1回の活動日を設定し、メンターチームの実践力の向上を図る。 ・年間を通して、不祥事防止、安全管理等の研修を計画的に実施する。	・メンター研修が毎月確保され、実技研や教室参観など研修が充実。実践に生かされた。	A ⓐ C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○子どもが見通しをもって学習に取り組めるよう1時間の流れが示されたり、視聴覚機器や具体物を用いた授業がされていたり、授業のユニバーサルデザイン化に取り組んでいた。 ○落ち着いた学校生活のために「音楽」を取り入れ、成果を上げているのが感じられた。校内音楽会に向け練習に励む子どもの姿が生き生きしていた。
学校関係者 評価結果	○全体的に落ち着いて、静かに授業を受けている。 ○ここ数年で学校がきれいになった。掲示物がよく整っている。 ○挨拶や言葉遣いは、先生や親が見せることが大事だ。

評価結果に 対する 学校の見解	・授業のユニバーサルデザイン化が意識されるようになったので、今後も継続し、「わかる・できる」授業づくりに努めたい。 ・児童理解研修やチーム支援を継続していくと共に、相談室の確保など環境面での整備も行っていきたい。
-----------------------	---

学校経営 中期目標 達成状況	・全職員が同じ方向を向いて児童に関わってきたことや、仲良し活動などの継続した取り組みが成果を上げ、学校全体が落ち着いてきている。 ・「わかる・できる」授業に一層取り組み、学力向上に努める。
----------------------	---

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・学習状況調査の結果から課題となった点について職員間で話し合い、具体的な方策を考え、実践する。 ・授業のユニバーサルデザイン化に取り組む。	・その時間に身につけさせたいことを明らかにし、めあてを解決していけるよう、互いの考えを交流し合う時間を大切に、授業を展開することができた。	A ⓐ C D
2 豊かな 心	・仲良し活動（異年齢集団活動）を継続して実施する。 ・学校保健委員会を中心に、温かい言葉がけによる人間関係づくりに取り組む。	・幼保小や縦割り班活動等の異学年交流が定着し、一人ひとりの自尊感情を高めることができた。 ・チュンチュン遊びタイムや長縄週間の取組等を通して自己肯定感がもてた。	A ⓐ C D
3 健やかな 体	・週2回のクラス全員での外遊びを工夫し、体力向上に努める。 ・全校での給食後の歯磨きを継続する。	・長縄の取組を通して全員で一つの目標に向かい、体を動かす楽しさを体験することができ、継続的に体力を高めていこうとする意欲を育成できた。	A ⓐ C D
4 教育課程 学習指導	・子どもが生き生きと学習に取り組む姿を目指し、生活科と総合的な学習の時間の重点研究に取り組み、教育課程を見直していく。 ・学級の実態に即した継続的な取り組みで知識・技能の定着を図る。	・地域とのつながりを取り入れた単元構想を練り、経験や集めた情報から自分の考えをもち、交流する姿がどの学年にも見られた。 ・スキルタイムを使い、漢字、計算等の知識、技能の定着を図ることができた。	A ⓐ C D
5 児童生徒 指導	・年間を通して挨拶運動に取り組む、習慣化を図る。 ・小雀スタンダードに基づいた一貫した指導を継続する。	・挨拶の取組は継続して行っていく必要がある。 ・小雀スタンダードを基に1年生から6年生まで一貫した児童指導を継続して行うことができています。	A ⓐ C D
6 特別支援 教育	・児童の情報を全職員で共有し、児童に応じた支援を行っていく。 ・特別支援教育に関する研修を行い、実践に活かす。 ・相談室など環境面を整備する。	・児童専任を中心とし、個に応じた支援を行うことができた。全職員で子どもを見ていくという意識を継続していきたい。 ・教室に行けない児童の学びの場としてスペースを設けることができ、環境面が整備された。	A B C D
7 地域連携	・近隣の幼稚園や保育園の交流を継続するとともに、中学校との交流を進める。 ・学校便りやホームページの内容をさらに充実する。	・地域の方による職員研修を行うことで地域にある材の活用について確認できた。 ・学校だより、学校ホームページの充実により教育活動の様子を積極的に発信することができた。	A B C D
人材育成 組織運営	・メンター研修を充実させる。 ・危機管理や児童理解など、学校や児童の実情に合わせた研修を行う。	・OJT推進事業として外部から講師を招き、授業力向上に向けた実践的な研修を積めた。また、月1回のメンター研修では、学級経営に活かせる内容のものを中心に行った。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○児童指導を単年度の指導で終わらず引継ぎを十分に行い、次学年でも継続した指導を工夫しているところがよい。また、幼保との連絡を密に取り、子どもたちの主体性を大切に、接続期が連続性、一貫性のある学びになるよう配慮している。 ○本校を含め、ブロック内の各校でスタンダードを意識した児童指導がなされていることが、近隣中学校の落ち着いた学校生活につながっていると思われる。
学校関係者 評価結果	授業を工夫しているため、子どもたちは活動的で活発である。落ち着いてのびのびと生活している。掲示物をはじめ学校全体の環境整備がなされ綺麗である。人材育成のため、OJT・メンター・授業研などの研修が充実している。今年度は学校の研修の様子がよく伝わってきた。

評価結果に 対する 学校の見解	授業のユニバーサル化に取り組み、子どもたちの互いの考えを交流し合う時間を大切にしてきた成果が、活発でのびのびとした児童の姿につながっている。学校の研修の様子がよく伝わっているのは、今年度人材育成研修に力を入れ、積極的に地域や保護者に発信してきた成果と言える。今後も継続していきたい。
-----------------------	---

学校経営 中期目標 達成状況	授業力向上に向け様々な研修を積み、指導力を磨いてきたことで、子どもたちが授業の中で生き生きと取り組めるようになり、自己有用感も高まってきた。授業のユニバーサルデザイン化に向けて一層努力し、学力の向上を図る余地は残る。
----------------------	--

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要